

日時：平成 21 年 1 月 31 日（土）、2 月 1 日（日）

場所：群馬県土合山の家

参加者：遭難対策常任委員 12 名、各岳連遭難対策委員及び各岳連加盟者 30 名

受付：8 時 30 分～

開始式：9:00

研修会：31 日 9:10～（於：室内）

1. 日山協が現在行っている強度試験および計測装置の紹介。

2. 支点強度についての疑問点について質疑及び、応答
・土嚢袋は従来の建材搬送に使用しているもの（茶色）と、自然保護を考慮し 3 か月で自然に還るもの（白色で茶色の土嚢袋より薄い）があるが、必ずしも強度は同じではない。素材の差もあるし、長期間経過していると劣化の影響も大きい

・スノーフルーク（通称：デッドマン）を支点に使うことについて。

スノーフルークは雪に潜り移動しながら雪の抵抗で持たせている。衝撃荷重には有効性が高いが

静的に荷重がかかるとそのまま抜けてしまう。各アソカの性質を十分理解し、また使用時の雪質を考慮して判断することが重要。

・結束についてテープが良いか、スリングが良いかということに論点が逸れがちだが、必要なことは
① 余端が十分にあること ②きちんとした結び方をしていること ③しっかり絞めこんでいることが言えるのではないかな。

13:00～屋外（於：山の家駐車場）

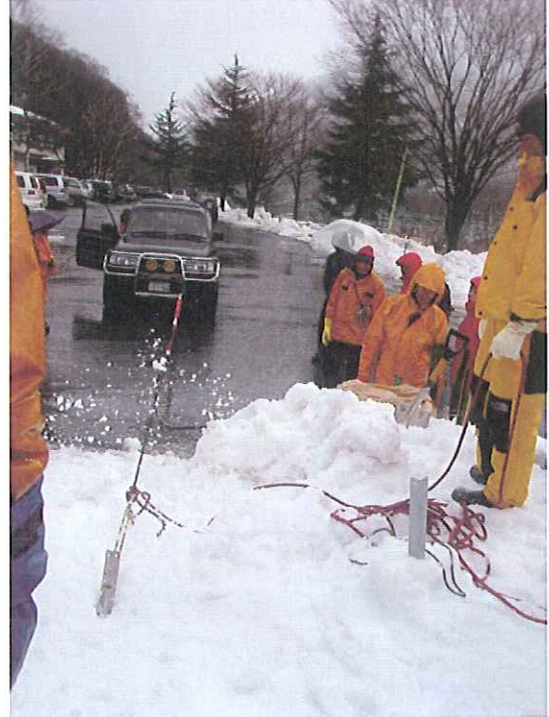
3. 支点強度についての検証

車両にロードセルをセットし、遭難者の引き上げ過重および、さまざまな支点の強度を計測した。

（測定結果別紙参照）

19:00～情報交換会

- ・ 縦に差したスノーバーは 200 kg 持たなかった。引き方の影響有り
- ・ 横に埋めたスノーバーは 700 kg 以上持った。
- ・ 土のう袋は 600 kg 前後持ったがナイロンのスタッフバッグは 500 kg



持たなかった。

- ・ 木を束ねたもの、竹が770kg持ったが、770kgが今日の雪の支持力の限界であると考えられる。
- ・ スノーフルーク（通称：デッドマン）は149kgで動き出し、243kgが最高で抜けた。



1日 8:00～（於：室内）

4. シート梱包を行う場合の注意点、ポイント
5. 遭難者の掘り出しから梱包を行ううえでの注意点

9:00～（於：山の家周辺フィールド）

6. アバランチトランシーバーの発信能力の検証

（測定結果別紙参照）

- ・ 測定はSOS F1NDを使用し50m受信感度にして発信能力を測定
- ・ AB1500の20mからSOS F1NDの37mまでばらついた
- ・ 50m受信感度にしても50m離れたら受信しない
- ・ 受信能力でいままで語られてきたが、発信能力も影響がありそうである。

7. アバランチトランシーバーを埋没させての搜索

- ・ 埋没 2mでの電波の特徴
- ・ 背面にスコップがあった場合（スノーボーダー等）での電波の特徴
- ・ 傾斜面での電波の特徴

12:00～まとめ 12:30 終了

以上

